

京都三大学 教養教育共同化による「新しい時代の要請に応じた教養教育」の実践

**背景**

地球環境の危機や一地域の変化が全世界の人々に影響を与えるほどのグローバル化の進展により、社会全体の枠組みが大きくかつ急激に変化している。

加えて、東日本大震災は多くの尊い命を奪い、生活や産業に深刻な打撃を与えるとともに、それに併発した原子力発電所の事故は暮らしとエネルギーの問題を投げかけるなど、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

また一方、被災地では、住民同士の助け合いや国内外からのボランティアによる救援・復興活動が展開されており、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」が再認識されている。

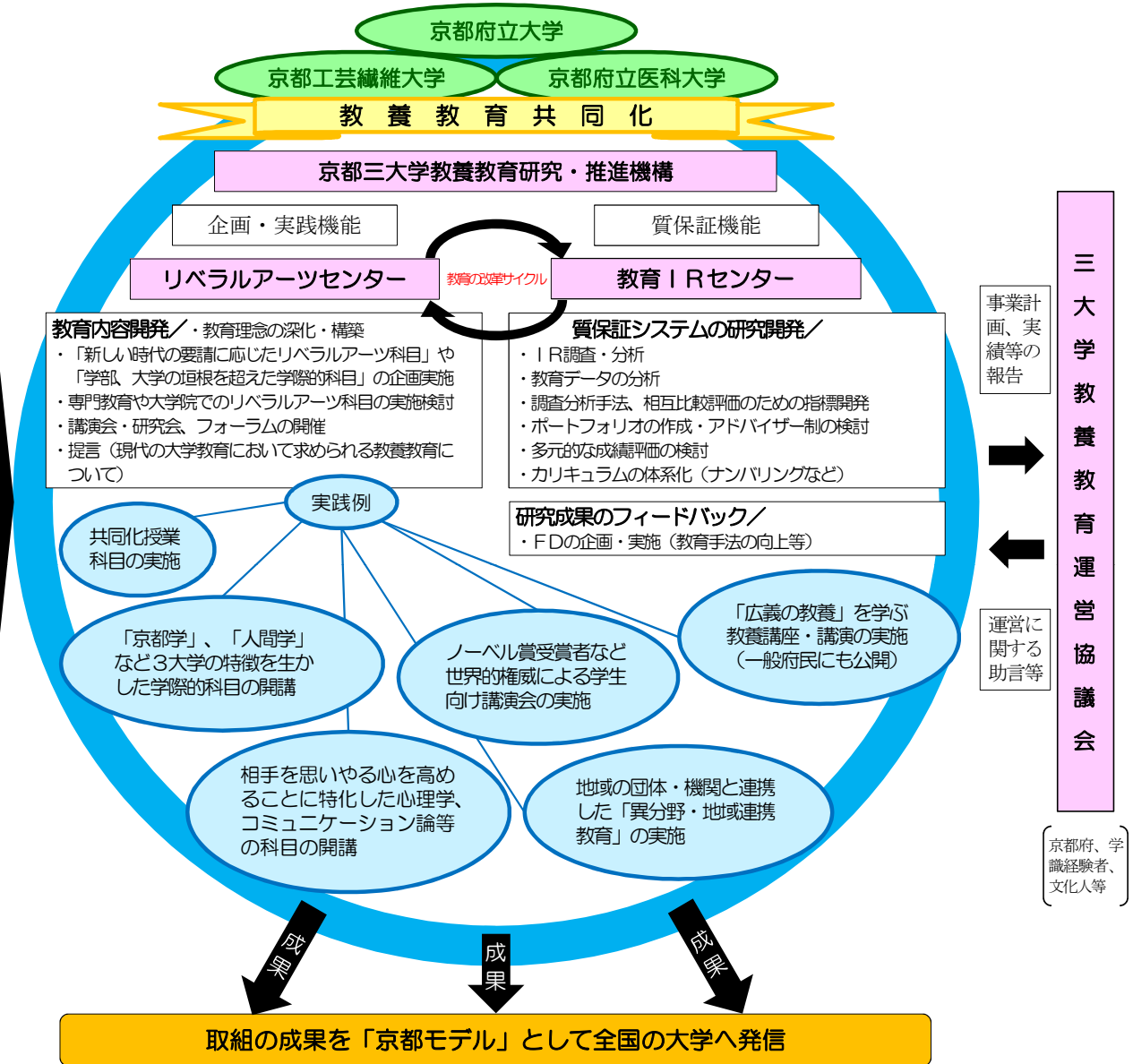
**取組コンセプト**

国公立三大学の教養教育カリキュラムを「共同化」し、それぞれの大学の特徴・強みを生かした質の高い、「新しい時代の要請に応じた教養教育」を実施する。

**人材養成の目標**

次の①～③を備えた人材を養成する。

- ①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心
- ②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」の存在しない問題についても、学際的な視点に立ち、多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力
- ③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力



## 時代が求める新たな教養教育の京都三大学共同（モデル）推進事業 概要

### （１）大学間連携の戦略と連携取組の趣旨・目的

今日、地球環境の回復力、資源と生命圏の有限性の現実化や、一国一地域の変化が直ちに全世界の人々に影響を与えるグローバル化の進展などによって、社会全体の枠組みが大きく、かつ急激に変化している。そうした状況の下で、大学教育においては、この枠組み自体を問い返し、「正解」のない問題に取り組み、オルタナティブを探求する学びが求められている。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は多くの尊い命を奪い、住民の生活や地域の産業に深刻な打撃を与えた。原子力発電所事故は、暮らしとエネルギーの問題を先鋭な形で投げかけ、国民全体が幸福感や社会関係のあり方を深く問い直す状況が広がっている。

被災地からは、ライフラインが断たれ物資も不足する厳しい条件の中でも互いに助け合う住民の姿が伝えられ、全国各地や外国からの多くの献身的なボランティアが救援・復興活動に携わっている状況とあわせて、「人を思いやる心」や「人と人との絆の大切さ」を社会に再認識させるものとなっている。

このような時代の転換点にいるという認識、大学教育の今日的使命を踏まえ、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の国公立三大学は、本事業を活用して、**医学系、理工学系単科大学を含む異なる個性の三大学の教養教育を共同化**することによって、個別大学の制約を克服し、カリキュラムの多様性・総合性の拡大を図るとともに、国公立三大学にまたがる**「新しい時代の要請に応じた共同教養教育カリキュラム」の構築**を進めることとした。

また、共同教養教育カリキュラムの構築の取組の成果を**「京都モデル」として「大学のまち・京都」から広く全国の大学に向けて発信**し、市民的教養に関わる社会への提言に取り組んでいきたいと考えている。

共同化した教養教育カリキュラムでは、専門教育を支える幅広い基礎知識の獲得のほか、**現代社会における市民性の涵養**という観点に照らした「知の共通基盤」、「人間性の基礎」を培うことを目的とし、具体的には、①異なる価値観や視点を持つ他者と協働する力としてのコミュニケーション能力及び相手を思いやる心、②自ら問題を発見し、それにコミットするとともに、「正解」のない問題についても、学際的な視点にたち、多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かって行動する能力、③グローバルな局面で、文化や言語を異にする他者と交流し協働する能力を備えた人材を育成することを目標としている。

なお、本事業においては、教養教育を専門教育の準備とはとらえず、専門教育と相互的に豊饒化してゆくものと考え、大学院や専門教育課程にも教養教育の要素を位置づけていく方法を検討していく。

また、大学の機能別分化の観点では、**医療・ものづくりを基盤とした「実学」、京都府を中心とする自然・社会・歴史・文化・産業に関する地域研究の総合的展開**という、それぞれの大学の**理念・特色を生かしていく**ことを基本とする。今回の教養教育の共同化により、共通の機能として「総合的教養教育」を強化することは、専門課程におけるそれぞれの大学の特色を一層強化することにつながると考える。

## (2) 連携取組の達成目標・成果

本事業は、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学という設置形態（国立・公立）の異なる大学、かつ、**文系・理系・医学系の専門領域の異なる大学が連携共同して取り組むものであるが、これらの大学に共通して必要とされる「新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラム」を構築することを第一の目標とする。**そして、そのことにより、今後、設置形態や専門領域の異なる**複数の大学が共同して教養教育カリキュラムを実施する場合のリーディングケース**を示し、全国の大学等に広く取組成果を発信・還元することができる。

また、新しい時代の要請に応じた教養教育カリキュラムを開発・展開し、人間性や知性の基礎を深く陶冶することにより、「対人的なコミュニケーション能力に優れ、他者に対して優しい眼差しを持ち、問題発見（解決）能力と地域貢献心及び国際的視野を有する人材」を養成することを目標とする（※）。そして、こうした人材を継続的に養成することにより、将来、**それぞれの専門分野である医療・福祉、教育・文化・公共、工学・造形、環境・生命科学をはじめとする多くの分野で活躍が期待される、深い教養に裏打ちされた人材を継続的に輩出し、地域の活力や福祉の向上に寄与することができる。**

（※）支援期間終了時点（平成28年度末）の人材育成目標数 約3,660人以上（≒三大学の1学年定員数×支援期間内の教養教育共同化授業の実施年数）

さらに、**三大学で連携共同してIRを推進**することにより、教育効果の他大学との比較や履修・成績評価データ分析を活用したカリキュラムの改革、FDの実施など効率的かつ合理的なカリキュラム運営が可能になる。同時に、成果と課題の共有により、教員全体の教養教育に関する意識の向上を一層効果的に図ることができる。

加えて、三大学教養教育共同化講義棟を新たに整備することで、教務事務の充実や運営体制の効率化を図ることができる。

## (3) 支援期間終了後の取組

支援期間終了後については、本取組で開発したカリキュラムや質保証の仕組みなどの成果を引き続き活用しながら、事業の継続的な実施を図る。

また、その際、教育の改革サイクルを回す中心として、本事業により新たに設置する「京都三大学教養教育研究・推進機構(仮称)」については、支援期間終了後も恒常的な組織機能として維持し、教育内容の更なる改善が図られるようにするとともに、そのために必要な人員、財源等を確保する。

なお、本事業のために、京都府の事業として、鉄筋コンクリート3階建ての三大学教養教育共同化講義棟（延べ床面積約9,100㎡）の建設が予定されており（平成26年2月竣工予定）、支援期間終了後もその共同化講義棟を中心に本教養教育共同化カリキュラムを実施することとしている。その点からも、本取組の支援期間終了後の継続的な実施が担保される。

## (4) 連携取組の内容

本事業の趣旨は、国公立三大学の教養教育カリキュラムを共同化し、質の高い、新しい時代の要請に応じた特色ある教養教育を実施することである。

具体的には、「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置し、新しい時代の要請に応じた特色ある教養教育の開発にあたりるとともに、IRの推進を通じた教育成果の検証を行い、FD

等につなげていくことにより、学修の質保証の仕組みを構築する。そして、それぞれの大学の特徴・強みを生かした教養教育カリキュラムを提供することにより、科目の選択幅を拡大し、学生の多様な関心・教育要求に応え、総合的に物事を観察し的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図る。

本連携取組の実施については「京都三大学教養教育研究・推進機構」の中に企画・実践機能を担う「リベラルアーツセンター(仮称)」と質保証機能を担う「教育IRセンター(仮称)」を設けて推進していく。

**企画・実践機能を担う「リベラルアーツセンター」では主として教育内容の開発を行う。**

具体的には、①三大学教養教育共同化の目指すべき教育理念の深化・構築、②先端的な教養教育の開発や「新しい時代の要請に応じたリベラルアーツ科目」、「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」等の企画・実施、③専門教育や大学院でのリベラルアーツ科目の実施検討、④講演会、シンポジウムの開催等による社会への発信、⑤現代の大学教育において求められる教養教育についての提言（教養教育「京都モデル」の発信）を行うこととしている。以下、それぞれの項目ごとに取組の詳細を記載する。

**①三大学教養教育共同化の目指すべき教育理念の深化・構築**

教育理念の深化・構築は、三大学の教授と大学外部から新たに招聘する教授で構成する「リベラルアーツセンター」が検討を進める。

検討にあたっては、全国の教養教育の専門家を招いた連続講演会やシンポジウム等を開催するとともに、全国の教養教育に関する特徴的な取組を行う大学の視察・実践や研究の交流を行い、理念の深化に資することとする。

**②先端的な教養教育の開発や「新しい時代の要請に応じたリベラルアーツ科目」、「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」等の企画・実施**

これらについては、上記理念の構築と併せながら、三大学の教員が協力の上、リベラルアーツセンターが中心となって検討する。なお、想定される取組の一部は次のとおりである。

(想定例)

<p>ア 京都学や人間学など学際的科目の開講</p>	<p>三大学にまたがる学問分野の広さを生かし、単独の大学では実現困難であった、学部・大学の垣根を超えた学際的な科目を開講する。 (想定科目例) ○京都学（京都の歴史、文学、農林業、伝統産業と先端産業などを学ぶ。） ○人間学（哲学、歴史学など多角的な視点から「人間とは何か」を考察する。） ○生命科学論（生命現象を総合的に学ぶとともに、生命科学の研究、ビジネス現場の最先端で行われている活動を学ぶ。） ○健康学（医学、栄養学、心理学、哲学など多角的な観点から「健康とは何か」を考察するとともに、健康であるためにはどうすればよいかを学ぶ。）</p>
<p>イ コミュニケーション能力や相手を思いやる心などに関連した心理</p>	<p>対人関係の中で相互に意思疎通を図るコミュニケーション能力や相手を思いやる心を高めるため、そのことに特化した心理学やコミュニケーション論などの科目を開講する。</p>

学等の開講	
-------	--

ウ ノーベル賞受賞者など世界的権威による学生向け講演会の実施	通常では接することができないような世界的権威（国内外ノーベル賞受賞者、世界的建築家など）の生の講演などにより、生き方や学習に関する学生の意識の向上を図る。
エ 学際ゼミナールや自主ゼミナールの開講	社会の変化に対して自主的、積極的に対応できる能力を獲得させるため、以下のようなゼミナールの開講を検討する。 (開講内容) ○三大学にまたがる学問分野の広さを生かし、一大学ではできない、現代のかつ学際的なテーマに関する、三大学の学生を対象としたゼミナール ○「自学自習」の姿勢を学生に効果的に修得させることを目的に、専門教育を早期に学習したい学生を対象とした、先端的主题に関するものや、原書・専門書を用いた課外での自主ゼミナール
オ 異分野・地域連携教育の実施	○学術・文化・伝統工芸・地場産業等、 <b>京都の特質を生かし</b> 、地域に密着した生活の技術・思想・倫理や人間と環境の関係、地域の持続可能な発展などをテーマとした、 <b>地域の団体・機関と連携した演習を実施する。</b>
カ 京都の歴史的・地理的特性を生かした宿泊型研修の実施	○ <b>京都の歴史的・地理的特性を生かし</b> 、歴史学、文学、芸術学、建築学などに関連した各地（関西、北陸、中国地方等）の史跡、文学の舞台、美術館、著名建築物などを訪れることにより、 <b>豊かな教養を身につける。</b>
キ 教養講座・講演の実施	実社会人を講師として「広義の教養」を学習し、人間としての幅を広げるとともに人間性の基盤を築く。 (内容) ○講師：華道家、茶道家、芸術家、料理人、宗教者、伝統工芸作家など京都の特性を生かす講師のほか、プロスポーツ選手、冒険家、囲碁・将棋棋士など ○学生だけでなく、京都北山エリアに集う一般府民も自由に受講することを可能とし、生涯学習講座としての機能ももたせる。 ○特徴的な講座等についてはデジタルコンテンツ化も検討する。
ク 豊かな国際感覚を育成するための外国語授業の実施	英語及び他の初修外国語の確実な習得を図ることにより、グローバル化時代に対応できる外国語のコミュニケーション能力の育成と幅広い国際的な文化理解を進める。

### ③専門教育や大学院でのリベラルアーツ科目の実施検討

教養教育を専門教育の単なる準備とはとらえず、専門教育と相互に豊饒化してゆくべきものとの考え方を基本に、リベラルアーツセンターが中心となり、三大学の教員が協力して検討を進める。

#### ④講演会、シンポジウムの開催等による社会への発信

理念構築後も、取組の状況を社会に情報発信するため、国内外の教育専門家などを招き、参加者とも意見交換を行う講演会・シンポジウムを毎年度開催する。

#### ⑤「現代の大学教育において求められる教養教育」についての提言（教養教育「京都モデル」の発信）

連携取組の支援期間中に取組成果の検証を行うとともに、支援期間の最終年度には、それまでの取組成果を踏まえ、「現代の大学教育において求められる教養教育について」の提言を行うことにより、広く成果を全国の大学等に還元する（教養教育「京都モデル」の発信）。

次に、**質保証機能を担う「教育IRセンター」**では、**主として質保証システムの研究開発と研究成果のフィードバックを行う。**

具体的には、①教育データの管理、調査・分析手法や相互比較評価のための指標の開発などIRの推進に関わるモニタリングシステムの構築、②ポートフォリオの作成、アドバイザー制の実施や多面的な成績評価の実施、③ナンバリングなど科目の体系の明示化を行うとともに、研究成果のフィードバックとして、④教育手法の向上等に関するFDの企画・実施などを行う。

これらの取組にあたっては、大学IRコンソーシアム（平成24年8月発足予定）と連携してIRの推進を図るほか、独自調査の実施や全国の質保証や教育手法向上に関する教育専門家を招いてのFD講演会などを実施することにより、質保証が担保される仕組みを確立する。

また、「京都三大学教養教育研究・推進機構」の外部に、**行政機関、外部の学識経験者、文化人などのステークホルダーを構成員とする「三大学教養教育運営協議会」**を設け、その協議会に対して毎年度、事業計画及び事業実績を報告し、助言等を受けることにより、ステークホルダーとの課題の共有や協働を図っていく。

施設の利用については、本事業のために、京都府の事業として、鉄筋コンクリート3階建ての三大学教養教育共同化講義棟（延べ床面積約9,100㎡）の建設が予定されており（平成26年2月竣工予定）、支援期間及び支援期間終了後もその共同講義棟を中心に本共同教養教育カリキュラムを実施する。また、三大学で教養教育を共同化することと併せて、各大学が保有する施設（図書館、講義室等教育施設、研究施設、学生厚生施設等）の相互利用を推進するための覚書を、三大学、京都府、京都府公立大学法人（京都府立の2大学の設置法人）の5者で平成23年1月25日に締結している。

本連携取組の情報提供については、本取組の中心となる「京都三大学教養教育研究・推進機構」が中心的な役割を担いつつ、各大学と協働しながら積極的な情報提供を図っていく。

情報提供の方法としては、①三大学のホームページでの広報に加え、本取組に関するホームページを新たに立ち上げるほか、②大学記者クラブへの積極的な情報提供、③大学コンソーシアム京都と協力した他大学への情報提供、④三大学教養教育共同化をPRするパンフレットや講演会、シンポジウム等のポスター・ちらしの配布などを広範囲に行うことにより、積極的に取組の情報提供を図っていく。

## (5) 大学等間の連携体制と連携取組の実施体制

	大学名・団体名	役割
代表校	京都府立大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携取組のとりまとめ</li> <li>・補助金に関する交付申請、実績報告等のとりまとめ</li> <li>・共同教育事業を実施するにあたっての中心となるキャンパスの提供など</li> </ul>
連携校	京都工芸繊維大学 京都府立医科大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携取組に関する共同実施</li> </ul>
関係団体	京都府	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携事業に関して実績等の報告を受けて運営に関する助言等を行う「三大学教養教育運営協議会」の構成員</li> <li>・地域での実習や行政に関係する講義への協力</li> <li>・三大学教養教育共同化講義棟の建設</li> </ul>
	大学コンソーシアム京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学のまち・京都」の加盟各大学との連携や情報提供への協力</li> </ul>
	大学IRコンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IRの推進について協働、アドバイス</li> </ul>

連携取組については、特色ある教育の企画・実践及びIRの推進を通じた質保証を図るための「**京都三大学教養教育研究・推進機構**」を新たに設置して推進する。

「**京都三大学教養教育研究・推進機構**」の中には、企画・実践機能を担う「**リベラルアーツセンター**」と質保証機能を担う「**教育IRセンター**」を置き、両センターが両輪となって改革サイクルを回していく。

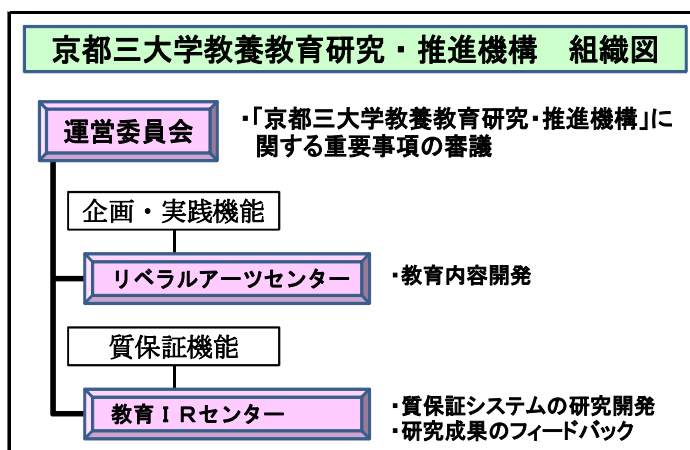
企画・実践機能を担う「**リベラルアーツセンター**」は、三大学の教授と大学外部から新たに招聘する教授で構成し、主として教育内容の開発を行う。

質保証機能を担う「**教育IRセンター**」は、三大学の教授と大学外部から招聘する教授で構成し、主として質保証システムの研究開発と研究成果のフィードバックを行う。

なお、両センターの上部には、三大学の副学長、リベラルアーツセン

ターの全教授、教育IRセンターの全教授、その他三大学副学長が指名する者を構成員とする「**運営委員会**」を置き、両センターの統括・マネジメントを行うとともに、**京都三大学教養教育研究・推進機構の重要事項の審議や教養教育課程全体の重要事項の調整**を行う。

また、「**京都三大学教養教育研究・推進機構**」の外部に、行政機関、外部の学識経験者、文化人などのステークホルダーを構成員とする「**三大学教養教育運営協議会**」を設け、その協議会に対して毎年度、事業計画及び事業実績を報告し、運営に関する助言等を得ることにより、ステークホルダーと課題を共有し、協働して取組を推進する体制を構築する。



さらに、三大学の学生にも本取組の具体的な実施に当たってボランティア等での参加を求めることにより、事務部門も含め、大学の構成員の総参加により三大学が一体となって本取組を推進するものとする。

## （６）連携や取組内容の実績等

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学については、地理的に近接し、日常的な教育研究交流が容易であり、これまでから**単位互換科目**（生命科学講話など）の**開講や相互の施設利用などで連携**を深めてきた。三大学の連携は、平成17年9月に三大学で教養教育共同化の考え方（中間まとめ）の取りまとめを行い、推進組織として、「三大学連携推進協議会」と「教養教育」、「専門教育」、「研究等」などの「部会」を設置している。

平成18年10月には**教育及び研究内容の充実、地域や社会に一層の貢献を行うことを目的に三大学で包括協定を締結**し、3つの部会を中心に、実施・計画検討が行われてきた。

教養教育の共同化に関しては、教養教育部会を中心に取組を実施し、三大学を結ぶネットワーク回線（専用線）、遠隔ライブ講義システム、Webシラバスシステムなどの整備により、**三大学をより密に結ぶ環境が整備**されてきた。

また、三大学の授業時間の統一や京都府立医科大学における単位互換科目の単位認定や5時限目の新設など**ソフト面における共同化に向けた条件整備も整**ってきている。

研究分野の連携に関しては、三大学研究フォーラムの実施等により学生・教員の交流が促進され、各大学のシーズを生かした共同研究に結びつくなどの成果があった。

一方、専門教育分野の連携推進については、三大学に京都薬科大学を加えた四大学連携の枠組みで、平成20年度から平成22年度にヘルスサイエンス系共同大学院の創設に向けて検討を進めたが、一旦凍結とし、その発展型として四大学の学長で構成する「京都四大学連携機構」を平成23年度に立ち上げ、同機構に「ヘルスサイエンス教育交流協議会」及び「京都ヘルスサイエンス総合研究センター（京都府立医科大学内に設置）」を設け、主に共同研究等の研究分野に特化した形で連携を推進している。今後は同センターに設置した、「発症・治癒機構解明」、「医療計測・診断」、「創薬」、「健康の維持・増進」の4つの研究グループを中心に、外部資金等を活用しながら共同研究を実施していくこととしている（平成23年7月25日協定締結）。

## （７）連携取組の評価体制等

本連携取組については「京都三大学教養教育研究・推進機構」を設置し、その中に企画・実践機能を担う「リベラルアーツセンター」と質保証機能を担う「教育IRセンター」を設けて推進していくこととしている。

このうち、質保証機能を担う「教育IRセンター」を設けることによりIRの推進を図り、**教育データの分析等による教育内容の評価**を行うこととしている。教育内容の評価に当たっては、独自の調査の実施のほか、大学IRコンソーシアムと連携し、他大学との比較を行い、その結果を教育効果を測る指標とすることによって、**実施組織の内部において、まず、教育内容のより客観的な評価**を行うこととする。

さらに、「京都三大学教養教育研究・推進機構」の外部に、行政機関、外部の学識経験者、文化人などのステークホルダーを構成員とする「三大学教養教育運営協議会」を設け、年次計画や事業実績を報告し、評価、助言等を受けることにより、連携取組の着実な実効に向けた**外部評価体制**を構築する。

## (8) 連携取組の実施計画

年度	取組内容
平成24年度	<p>体制整備・理念構築・開発着手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○京都三大学教養教育研究・推進機構発足</li> <li>○三大学教養教育共同化の目指すべき教育理念の深化・構築に向けた取組             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の教養教育の専門家を招いた連続講演会やシンポジウムの開催</li> <li>・全国の教養教育に関する特徴的な取組を行っている大学の視察</li> </ul> </li> <li>○先端的な教養教育の企画・検討</li> <li>○「新しい時代の要請に応じたりベラルアーツ科目」や「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」などの企画・検討</li> <li>○単位互換授業の実施</li> <li>○I R推進のための調査・分析の実施</li> <li>○調査の分析手法や相互比較評価のための指標開発</li> <li>○ポートフォリオの作成、アドバイザー制及び多面的な成績評価の実施に向けた検討</li> <li>○カリキュラムの体系化（ナンバリングなど）に向けた検討</li> <li>○本取組について社会へ情報提供するためのフォーラムの開催</li> <li>○本取組に関するホームページの制作</li> </ul>
平成25年度	<p>開発推進・I R等実施・共同化授業実践準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○先端的な教養教育の具体的な企画・検討</li> <li>○「新しい時代の要請に応じたりベラルアーツ科目」や「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」などの具体的な企画・検討</li> <li>○教育内容の開発及びI R推進のための研究会の実施</li> <li>○先端的な教養教育、I R推進等をテーマとしたシンポジウムの開催</li> <li>○共同化授業科目（ゼミ等を含む。以下同じ。）の具体的な科目内容の検討及び決定</li> <li>○共同化授業科目の担当講師の依頼</li> <li>○共同化授業科目の履修登録方法、履修登録時期、単位認定の方法、授業アンケートの内容などの最終決定</li> <li>○共同化授業科目に関するシラバスの作成</li> <li>○単位互換授業の実施</li> <li>○I R推進のための調査・分析の実施</li> <li>○FDの開催（質保証、教育手法の向上等）</li> <li>○調査分析手法、相互比較評価のための指標開発</li> <li>○ポートフォリオの作成、アドバイザー制及び多面的な成績評価の実施に向けた検討</li> <li>○カリキュラムの体系化（ナンバリングなど）</li> <li>○本取組について社会へ情報提供するためのフォーラムの開催</li> <li>○三大学教養教育共同化講義棟の完成（京都府事業）</li> </ul>

年度	取組内容	
平成26年度	共同化授業本格実践	<p>○三大学共同教養教育授業の開始</p> <p>○先端的な教養教育の実施</p> <p>○「新しい時代の要請に応じたリベラルアーツ科目」や「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」などの実施</p> <p>○IR推進のための調査・分析の実施</p> <p>○FDの開催（質保証、教育手法の向上等）</p> <p>○ポートフォリオの作成、アドバイザー制及び多角的な成績評価の実施</p> <p>○本取組について社会へ情報提供するためのフォーラムの開催</p> <p>○各取組の改善の検討</p>
平成27年度	取組の実践・評価検証	<p>○取組の検証を実施</p> <p>○支援期間終了後の将来計画・目標等の検討</p> <p>○三大学共同教養教育授業の継続した実施</p> <p>○先端的な教養教育の継続した実施</p> <p>○「新しい時代の要請に応じたリベラルアーツ科目」や「学部・大学の垣根を超えた学際的科目」などの継続した実施</p> <p>○IR推進のための調査・分析の実施</p> <p>○FDの開催（質保証、教育手法の向上等）</p> <p>○ポートフォリオの作成、アドバイザー制及び多角的な成績評価の継続した実施</p> <p>○本取組について社会へ情報提供するためのフォーラムの開催</p> <p>○各取組の改善の検討</p>
平成28年度	取組の発展・普遍定着	<p>○三大学共同教養教育授業の継続した実施</p> <p>○先端的な教養教育の継続した実施</p> <p>○「新しい時代の要請に応じたリベラルアーツ科目」や「学部・大学の垣根を超えた科目」の継続した実施</p> <p>○IR推進のための調査・分析の実施</p> <p>○FDの開催（質保証、教育手法の向上等）</p> <p>○ポートフォリオの作成、アドバイザー制及び多角的な成績評価の継続した実施</p> <p>○提言（「現代の大学教育において求められる教養教育とは」）の社会に向けた発信及びフォーラムの実施（教養教育「京都モデル」の発信）</p> <p>○各取組の改善の検討</p> <p>○支援期間終了後の実施に関する準備</p>